

令和6年用生食もも病害虫防除基準

| 散布時期 | 適用病害虫 | 薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量) | 収穫前 使用日数 | 総使用 回数 | 10a当たり 散布量 | 注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数) | 防除履歴 | |
|---------------------------------------|--|---|----------------------------------|--|---------------|---|--|------------------------|
| ① 発 芽 直 前 | | 1. 水 (88ℓ) | | | | 1. ハーベストオイルに替えて、スプレーオイル50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 2. トレノックスフロアブルに替えて石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を使用してもよい。その際、アプロードフロアブルは加用しない。 3. コスカシバの春季対策として、開花期までフェニックスフロアブル500倍(開花期まで、樹幹散布1回)を樹幹部及び主枝に丁寧に散布する。 4. 温暖な日を選び、かかりむらのないようにていねいに散布する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | カイガラムシ類 モモアカアブラムシ (ハダニ類) | 2. ハーベストオイル 50倍(2ℓ) | 発芽前 | - | 350ℓ | | | |
| | 縮葉病 | 3. トレノックスフロアブル 500倍(200ml) | 7日前まで | 5回以内 | | | | |
| | カイガラムシ類幼虫 | 4. アプロードフロアブル 1,000倍(100ml) | 14日前まで | 3回以内 | | | | |
| | | 殺虫剤、除草剤の散布制限 | | 訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまで殺虫剤並びに除草剤の散布はしない。 | | | | |
| 【特別 対策】 | ナシヒメシンクイムシ | 1. ナシヒメコン 100本/10a | - | - | - | 1. 下記交信かく乱剤の使用上の注意事項を参照し、開花前に設置する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| ② 開 花 前 ま で (風せん状) | せん孔細菌病 縮葉病 | 1. ICボルドー412 30倍(3.3kg) | - | - | 350ℓ | 1. せん孔細菌病の重点防除時期なので、適期に散布する。特に前年せん孔細菌病の多発した園地では防除を徹底する。 2. シンクイムシ類の多い園地では、4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置する(下表「交信かく乱剤」参照)。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | ③ 落 花 直 後 (巣箱撤去後) | せん孔細菌病 | 1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍(10ml) | 60日前まで | 2回以内 | 400ℓ | 1. ポリネーションの引き上げ後に散布する。 2. 結実前の若木主体の園地では、スコア顆粒水和剤に替えて、トップジンM水和剤1,000倍(前日まで、6回以内)を使用してもよい。 3. ストマイ液剤20に替えてアグレプト水和剤1,000倍(収穫60日前まで、2回以内)を使用してもよい。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | | 灰星病 黒星病 | 2. ストマイ液剤20 1,000倍(100ml) | | 3回以内 | | | |
| アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類 | | 3. スコア顆粒水和剤 2,000倍(50g) | 3回以内 | | | | | |
| ④ 前 回 散 布 10 日 後 | せん孔細菌病 果実赤点病 黒星病 | 1. ペンコゼブ水和剤 600倍(166g) | 21日前まで | 3回以内 | 400ℓ | 1. コスカシバが多い園地では、スカシバコンLを40~100本/10a設置する。 2. うどんこ病が見られる園地では、トリフミン水和剤1,500倍(前日まで、3回以内)を散布する。 3. カメムシ類の発生が多い園地では、5月中旬~5月下旬にスミチオン水和剤40,000倍(3日前まで、6回以内)を2~3回散布する。 4. ペンコゼブ水和剤に替えて、クプロシールド1,000倍(-,-)(クレフノン100倍加用)を使用してもよい。クプロシールドは高温時や複数回散布によって、葉にせん孔症状の葉害や果実に汚れの恐れがあるため注意する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | ハマキムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 | 2. フェニックスフロアブル 4,000倍(25ml) | 前日まで | 2回以内 | | | | |
| ⑤ 6 月 上 旬 | せん孔細菌病 | 1. マイコシールド 2,000倍(50g) | 21日前まで | 5回以内 | 400ℓ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> カイガラムシ対策 カイガラムシ類が多い園地では、5月下旬~6月上旬に発生状況を確認し、モベントフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を枝幹に十分かかるよう加用して散布する。マイコシールドを混用する場合は、モベントフロアブルを先に希釈してから加える。 </div> 1. 今回防除から収穫終了期まで、バイカルティ1,000倍を加用してもよい。その際、リン酸の含まれる葉面散布剤は使用しない。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | 灰星病 黒星病 | 2. トレノックスフロアブル 500倍(200ml) | 7日前まで | 5回以内 | | | | |
| | アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 | 3. サイアノックス水和剤 1,000倍(100g) | 21日前まで | 3回以内 | | | | |
| ⑥ 6 月 中 旬 | せん孔細菌病 | 1. デランフロアブル 600倍(166ml) | 7日前まで | 4回以内 | 400ℓ | | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | シンクイムシ類 モモハモグリガ (カメムシ類) | 2. アグロスリン水和剤 ^(注) 1,000倍(100g) | 前日まで | 5回以内 | | | | |
| | ハダニ類 | 4. ダニコングフロアブル 2,000倍(50ml) | 前日まで | 1回 | | | | |
| ⑦ 6 月 下 旬 | せん孔細菌病 | 1. マイコシールド 2,000倍(50g) | 21日前まで | 5回以内 | 400ℓ | | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | シンクイムシ類 カメムシ類 | 2. テッパン液剤 2,000倍(50ml) | 前日まで | 2回以内 | | | | |
| ⑧ 7 月 上 旬 | 灰星病 果実赤点病 | 1. パスポート顆粒水和剤 1,000倍(100g) | 前日まで | 6回以内 | 400ℓ | 1. シンクイムシ類、モモハモグリガが多い園地では、防除間隔を10日以上空けないようにする。 2. ナシヒメシンクイの多い園地では7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ | |
| | モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類 シンクイムシ類 | 2. スタークル顆粒水和剤 2,000倍(50g) | 前日まで | 3回以内 | | | | |

| 散布時期 | 適用病害虫 | 薬剤名及び濃度(水100ℓ当たり薬量) | 収穫前使用日数 | 総使用回数 | 10a当たり散布量 | 注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数) | 防除履歴 |
|---|------------------------------|--|--|--------------------|----------------------|---|---|
| 品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。 | | | | | | | |
| 灰星病 重点防除 | ⑨ 7月中旬 | 灰星病 黒星病 うどんこ病 | 1. オンリーワンフロアブル 2,000倍(50ml) | 前日まで | 3回以内 | 400ℓ | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | | シンクイムシ類 ハマキムシ類 | 2. ダイアジノン水和剤 ³⁴ Ⓜ 1,000倍(100g) | 前日まで | 4回以内 | | |
| | ⑩ 7月下旬 | 灰星病 | 1. ロブラール500アクア 1,500倍(66ml) | 前日まで | 3回以内 | 400ℓ | 1. 果実汚染に十分注意する。 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | | シンクイムシ類 モモハモグリガ ハマキムシ類 | 2. エクシレルSE 2,500倍(40ml) | 前日まで | 3回以内 | | |
| | | ハダニ類 | 3. マイトコーネフロアブル 1,000倍(100ml) | 前日まで | 1回 | | |
| | 散布時期 | 適用病害虫 | 早 生 紅国見・あかつき | 中 生 いけだ・川中島・黄金桃 | 晩 生 あぶくま・だて白桃・ゆづら | 10a当たり散布量 | 注 意 事 項 (収穫前使用日数、総使用回数) |
| ⑪ 8月上旬 | 灰星病 黒星病 うどんこ病 | 1. パレード15フロアブル 2,000倍(50ml)(前日まで、2回以内) | | | 400ℓ | 1. 早生種でせん孔細菌病が多い園では、収穫後直ちにICボルドー412 30倍(一、一)を14日間隔で2~3回単用散布する。 2. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | シンクイムシ類 | 2. アーデントフロアブル 2,000倍(50ml)(前日まで、3回以内) | | | | | |
| ⑫ 8月中旬 | 灰星病 黒星病 | 1. アンビルフロアブル 1,000倍(100ml) (前日まで、3回以内) | | | 400ℓ | 3. スカウトフロアブル [Ⓜ] に替えてロディー水和剤 [Ⓜ] 1,000倍(前日まで、5回以内)を使用してもよい。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 | 2. バリアード顆粒水和剤 2,000倍(50g) (前日まで、3回以内) | | | | | |
| ⑬ 8月下旬 | 灰星病 | 1. ナリアWDG 2,000倍(50g) (前日まで、2回以内) | | | 400ℓ | | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ | 2. スカウトフロアブル [Ⓜ] 2,000倍(50ml) (前日まで、5回以内) | | | | | |
| ⑭ 9月上旬 | 灰星病 | 1. インダーフロアブル 5,000倍(20ml) (前日まで、4回以内) | | | 400ℓ | | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | シンクイムシ類 モモハモグリガ | 2. モスピラン顆粒水溶剤 [Ⓜ] 2,000倍(50g) (前日まで、3回以内) | | | | | |
| ⑮ 9月中旬 | 灰星病 | 1. アミスター10フロアブル 1,000倍(100ml) (前日まで、3回以内) | | | 400ℓ | 1. 極晩生種では、灰星病対策として9月下旬にオーシャインフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を散布してもよい。尚、オーシャインフロアブルは、うり科の野菜に薬害の恐れがあるので注意する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | シンクイムシ類 モモハモグリガ | 2. サムコフロアブル10 5,000倍(20ml) (前日まで、2回以内) | | | | | |
| 9月 収穫 下旬 | ⑯ | 1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml) | | | 400ℓ | 1. ICボルドー412に替えて、クレフノン100倍加用のコサイド3000、2,000倍(収穫後~落葉まで、-)を使用してもよい。 りんごの隣接園では散布の際に飛散しないように十分注意する | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | せん孔細菌病 | 2. ICボルドー412 30倍(3.3kg) | - | - | | | |
| | モモハモグリガ | 3. スミチオン水和剤40 1,000倍(100g) | 3日前まで | 6回以内 | | | |
| 近年、せん孔細菌病が多発しているため、落葉前までにICボルドー412 30倍(一、-)を必ず2回散布する。 | | | | | | | |
| ⑰ 9月下旬 | | 1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍(100ml) | | | 400ℓ | 1. 例年コスカシバが多い園では、落葉後ラビキラー乳剤 [Ⓜ] 200倍(落葉後~発芽前(休眠期)、1回)またはガットサイドS1.5倍(30日前、1回)を樹幹部及び主枝に散布する。 | 散布日 月 日 散布量 ℓ |
| | せん孔細菌病 | 2. ICボルドー412 30倍(3.3kg) | - | - | | | |

生食もも

耕種的防除

| | |
|--------|--|
| 全般 | 1. 適切な肥培管理により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分は6~7月中に徒長枝管理を行い、冬季に切りすぎない。 3. 日焼け・凍害防止のため、主幹部にホワイトンパウダーを散布または塗布する。 |
| せん孔細菌病 | 1. 風の強い園では、防風対策を徹底する。 2. 樹勢が弱いと発生が多くなるので適正な樹勢の維持に努める。 3. 前年の被害枝は剪定時に切り取り園地内に放置せず、適切に処分する。 |
| 灰星病 | 1. 被害部位(花・葉・果実)は、見つけしだい除去し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。 |
| カメムシ類 | 1. 卵塊・ふ化幼虫は見つけしだい捕殺する。 |

生食もも施肥基準(成木:10a当たり)

| 作型・目標収量 | 肥料名 | 施肥量(kg) | 施肥時期 | N | P | K |
|--------------|---------------|---------|------------|------|-----|-----|
| 生食もも 2,500kg | フレッシュフルーツ有機70 | 100kg | 収穫後(10月上旬) | 10.0 | 5.0 | 2.0 |

交信かく乱剤(シンクイムシ対策)

| 対象病害虫 | 薬剤名 | 使用方法 |
|-------------------------------|----------|--|
| モモシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類 | コンフューザーN | 4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。 |
| ナシヒメシンクイ | ナシヒメコン | |

1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園地内均一に設置する。
2. 傾斜上部の設置割合を1~2割多くする。
3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4. 防風ネットなどを利用する。
5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。

凍害防止

1. 夏季管理も行い、大きな切り口を作らないよう、注意する。
2. 主幹部に白塗剤を塗布することで、冬期における樹体温度の上昇を抑え、凍害を防止します。
3. 水6ℓにホワイトンパウダー2kgを徐々に入れ、十分攪拌してペースト状にする。10分間程度放置後、ブラシなどで塗布する。